
3両目

葉琉日

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

3両目

【NNコード】

N5845S

【作者名】

葉琉日

【あらすじ】

鶴庭子さまの企画に便乗です（え？今更…？）
短編レビューになります

お約束

死語バリバリの昭和ノスタルジーなおはなしであること

主人公 佐藤優子 高校一年生

彼女が憧れる 同じ路線の男子校の生徒 鈴木健一

通学ものです

御付き合いいただけたら嬉しいです

佐藤優子は巷で有名な女子校に通う高校一年生
女子校たるゆえ色々なルールがあり、校則が厳しいことで有名だ

スカートは膝丈 それ以上でも以下でもダメ
髪の毛は肩につく長さは三つ編みか後ろで束ねる

化粧それに類すること禁止

学校指定のカバン以外禁止

異性交遊禁止

エトセトラ・・・

その女子校がある駅を通過するのが北武線

7時32分発 新港北行き

3両目ボックス席

進行方向に対し後ろ向きの席が優子の指定席だ

毎朝ここに座り

こんな風に窓の外を見ている

そこへ軽快な足音と共にやってきた友人真理子が
優子の前にどさつと腰を下ろした

「ギリギリセーフ！あ？優子すっげー美味しそうじゃんソレ
と、優子のカバンからちらりと見えてるメロンパンを指差す

真理子は高一にしてはおしゃまな女の子で
オンザ眉毛の前髪が似合ってしまうような

まだ中学生感覚が抜けきつていない困ったちやんだ

「食べたいの？」とメロンパンを差し出すと

「え？ マジ？ らひきーちやちやちやちや、ウー！ もつれーお腹空いてて死にそつー。」

優子の手からあつと書ひ間にメロンパンを抜くと

「ちんたらしてると先口ーに見つかっちやうー」とちょっと隠れるようにメロンパンを食べだす

くすくすと笑いながら真理子に気がつかれないよつとホームを見る

今日はあの入くるかな。。。

時計をちらりと見ると7時30分
あと少しで発車するはず

まだ彼は来ない。。

真理子が大きな声で弟の愚痴を言つてこの

いつもってダベつてるとあつとこう間に発車時間だ

発車のアナウンスが聞こえる

（

今日は来ないのかな。。。。

そう思つた瞬間

ドアからスルリと人影が入つて來た

あ・・・
きた・・・

逆光で見えないけど、あのガタイの良さは絶対に彼だ・・・
始業式の日からずつとずつと気になつていた彼・・・

名前は、、、そう、、、鈴木健二くん

彼も北武線の3両目を定位置にしてるみたい
優子が通う女子高と同じ路線にある有名男子高の生徒だ
いつも大きなスポーツカバンを斜めに下げ
短髪の髪の毛はつんつんに立つてゐる

電車が発車してから20分間
彼の事をあれこれ想像しながらちらちら見る毎日・・・
何のスポーツしてるんだろ・・?
あれはどこのかばん・・?
大きな時計だなあ・・

見てるだけ

それだけで満足だったはずなのに・・・
はず・・・なのに・・・

ちくりと胸が痛くなるの・・・なぜ?

最初は名前も分からなかつた

学生カバンの横に小さく書いてある名前を必死に読もうとした
電車から降りる時に・・・

名字が鈴木君だつてことは分かつたんだけど、どうしても分からなかつた下の名前

偶然、彼の友達が「おいー健ーー」って呼んだのをきっかけに
彼が健一君だと判明した

その日は、周りの景色ががらりとかわるくらい嬉しかつた

ああ、あと一駅で降りなきや・・・

前に座る真理子が「ごそごそと慌てる

優子もポケットの定期を取りだそうと下を向いた

その時・・・

フト、自分を覆うかのよつた影ができた

顔をあげると目の前に彼が立っていた

え・・・？

彼は少し恥ずかしそうに伏せがちな目で
「ほれ。」と紙袋を渡して来た

条件反射で受け取る自分

ほのかにあたたかい・・・

これは・・・？

前に座っている真理子はなんじやらほい?!?
と、口がぽかーんと開いたままだ

「ほり、降りないとだろ？」

思わず優子は「健一くん？」と言ってしまった
慌てて口を抑えるが後の祭り・・

当の健一君はニヤッと笑つといひ言つた

「また明日な 優子！」

優しく私の背中を押してくれた

ガツタンゴットン ガツタンゴットン ガツタンゴットン・・

呆然とする優子を置いて走り去る電車・・

紙袋の中身は・・・

焼きたてのメロンパンだった・・

隣で真理子がとんでもハッパンだと興奮して騒いでいる

「思わず耳がダンボになっちゃったじゃん！あいつボンクラっぽい
くせにめちゃんこやるじやん…やつたね優子…両思いじゃん…」

「うふ・・・やめてー。」

真理子の興奮はまだおさまらないもな
い反して優子は冷静になってしまった

健一郎・・・明日なーつて・・・
明日つて・・・

明日は優子の誕生日だ・・・
まさかね・・・

優子は高校へと向う坂をフワフワしながら歩くのだった・・・

(後書き)

* * *

今日は雨模様ですねー
通学路にはいろんなドリームがありますよね
懐かしい～の感覚！

庭子もお楽しみに企画をあつがとついでありますー

from葉琉田

* * *

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5845s/>

3両目

2011年10月8日08時03分発行